

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0893100016		
法人名	有限会社さくら園		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町奥谷2165		
自己評価作成日	平成28年4月7日	評価結果市町村受理日	平成28年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0893100016-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成28年5月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた安全な土地で、一人ひとりの個性に合った生活を送って頂く事が出来るよう日々寄り添いながら介護サービスを提供させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれ、朝はウグイスや小鳥のさえずりで目覚める。利用者が地域の一員として、当たり前のような生活ができるよう、事業所を地域に広くオープンにし夏祭りには地域住民を招待している。また、地元で開催される様々な催し(夏祭り・ごみO運動)や商店に買い物に行き、なじみの人と挨拶や会話を交わしたり、時には情報交換を行っている場面がみられるという。事業所主催の夏祭りや餅つきでは地域住民のボランティア訪問や自治会と合同ののど自慢大会があり利用者の楽しみとなっている。代表は介護・福祉に関し相談を受けてアドバイスや関係機関につなげ、認知症・事業所に関し地域から理解を得られている。職員は利用者の思いを把握し、その人らしい生活が継続できるよう、きめ細かい提供するケアの内容を全職員で共有し支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、職員の目の届く場所に掲示し確認できる様にしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を視界に入るところへ掲示している他、申し送り時・会議等で確認し、管理者・職員は共有して日々のケアに努めている。職員は利用者の想いを大切に、やりたいことができるように支援に努めているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町のお祭り、花火見物やボランティア手伝いを依頼して、持ちつき大会を開催しています。	買い物に出かけて顔なじみの人と挨拶を交わしたり、立ち話をしている。夏祭りには地域住民の参加があり、餅つきではボランティア(タクティールケア・オカリナ・カラオケ・太鼓・雷神様・チンドン屋訪問)の応援を得て楽しんでいる。地元の祭り・花火の見学にでかけている。町の産業祭や生き生き健康祭りでブースを設置し介護相談を受け、認知症・事業所に対する理解を得ている。2つの自治会と交流を行い環境美化やのど自慢大会を実施予定。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あじさい祭り、いばらき祭りに参加して、認知症や介護に対する啓発活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議で、利用者の状況と、行事の報告をさせていただき、話し合いをしています。	行政(社会福祉課・地域包括センター)・区長・地区代表・事業所担当者のメンバーで2か月ごとに開催している。主な議題は事業予定・報告・利用状況・インフルエンザ等の注意事項を話し合い、意見をサービス向上に活かしている。地域交流の場として、他の事業所と一緒に地域住民とのど自慢大会が10月に開催される予定。また食事やリビングでの生活様子を見てもらい、アドバイスをもらっている。職員には議事録をみてもらっている。	家族の参加が難しい中、運営推進会議の意義を考えると、事業所の取り組みを家族に伝えることも大切である。議事録の郵送や面会時に伝達し、家族と事業所と連携することが望ましい。職員には議事録を読んだことを確認するため、押印チェックし共有することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の催しに参加しています。問題が起こった場合等は速やかに担当者に相談しています。	担当課(社会福祉課・社協・地域包括センター)とは連絡を密にとり協力関係を築いている。ケアマネ会・地域密着型連絡協議会に参加し行政と情報交換を行っている。小・中学生の体験学習の場として提供することを学校に伝えている。地域包括支援センターの要請により小学生を対象にしたバルーンアートを披露し、出来上がる様々な動物のアートに子供たちは目を輝かせて喜んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の話し合いをし、統一した考えの基、対応しています。	身体拘束となる行為・弊害は周知し、利用者が安全で快適な生活が出来るように、全職員で見守り支援に努めている。玄関の施錠は行わず、外出傾向がみられたときは職員と一緒に出かけている。危険回避時に叱咤に発する言葉も利用者にとって拘束になりうることも理解し、対処している。状態が不安定な時は、転倒防止対策として夜間にセンサー・ベッド柵を使用する時があるが、家族に説明し了承を得ている。(状態が落ち着いた時は解除)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを用いて、社内研修会や新人研修で研修し虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・青年後見制度に関しては介護福祉士受験のための社内勉強会等を通じて理解を深めるように努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に一つ一つ説明し、疑問点が残らないようにさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、利用者ご家族から意見を頂く様にしています。	意見の言い出しにくい利用者・家族に配慮し意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示している。面会時やイベント開催時に意見を聞き、フィードバックし問題解決に努めている。利用者からの要望に対し出来る範囲で対応している。今後は数ヶ月ごとに広報誌を家族に向けて発行していきたいとの事。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度運営会議、グループホーム会議、カンファレンス、勉強会の開催にて行なっています。	管理者は職員が働きやすい環境整備に努めたり、表情・様子が普段と違うときは声掛けを行い、ストレスや不満の解消に努めているので、人間関係は良好である。職員は日々の気づきや提案・要望等(入浴回数を増やす・受診介助・シャワー椅子・テレビを大型に→改善・購入した)を伝え運営に反映させている。外部研修に参加し会議等で伝達報告を行い、共有とレベルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内会議で職員のやりがいが出るように就業規則の見直しや昇給・退職金等議題に話し合い改善して行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加してもらう様に促し、研修を受けてもらっている。社内で行ういろいろな部署に異動し互いに触発できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の居宅ケアマネとの交流の機会を設け、率直に出来ていない所を指摘してもらえるような環境を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴・受容・共感を基本に、職員全員が利用者様に信頼をして頂けるように努め、小さな課題でも共有出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごとや不安、要望を傾聴し、職員全員が共有し、関係づくりが出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを開き、ご本人様・ご家族様の主訴を把握し話し合い、他のサービス利用も含められるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の立場に立ち、なんでも話せるような関係を作れるように努力しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さまにしか出来ないこと等、利用者とは家族だけの関係を大切にしながらご家族さまとよく相談を一緒に本人を支えていけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内にあるデイサービスを利用されている方々との面会支援をし、関係が継続できるよう努めています。	なかなか面会に出来ない知人・友人・親族の方々と年賀状・はがきで連絡を取り合い、馴染みの人との関係継続に努めている。馴染みの商店・病院・ゲートボール場・お墓参り・自宅に出かけ思い出の場所の回想を提供している。利用者の要望により、馴染みの美容師・マッサージの訪問がある。今まで通り牛乳を取っている利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や話の合う方、出身地が同じ方にリビングで近くに座って頂いたり、それぞれ紹介しあったり皆と一緒に暮らす仲間として生活できています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に年賀状を出したり、行事等に声掛けをしたりして、相談が出来るような関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のやりたいことを進んでいただき、不公平の無いように対応しています。	利用者の生活歴・職歴から思いや暮らし方の希望・意向を把握し今までと同じような生活ができるよう全職員で共有し支援に努めている。趣味(俳句・折り紙・チラシを利用したごみ箱・梅酒づくり等)は利用者が講師として気持ちを向上させ残存機能の低下防止と認知症が緩やかに変化するように努めている。利用者の思いは日々変わることもあるので現況に応じた支援の提供に努めている。困難な場合は表情・様子から察知し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からよく話を伺い自宅で生活している時と同じような生活が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントをして現状に合った介護が出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを行い、ご家族やご本人の意見を参考にしながら作成しております。	月2回のカンファレンスを開催し、利用者の課題とケアのあり方について話し合い、モニタリングから目標を設定し利用者・家族の意見に沿ったプランを作成している。作成後は家族の同意を得ている。前回の評価を受け、ケース記録にケアプランの目標達成に向けた支援内容を記録するようにした。評価チェックと目標設定の見直しの意見交換は活発に実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや生活記録に情報を記入し、毎月カンファレンスを行い情報を共有し計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のマッサージを受けて頂いたり、同敷地内のデイサービスでのレクリエーションに参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターにボランティアさんの情報等をいただき、施設に来ていただいたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に職員対応にてかかりつけ医に受診しています。	基本的には以前からのかかりつけ医に家族が付き添い受診しているが、家族都合や状態に応じては職員が付き添うこともあり、受診後は受診結果表に受診内容・結果を記録に残し、家族・事業所で共有している。週2回の訪問看護により体調管理・異変を感じた場合は早めの受診を行い、夜間に戸惑うことのないよう配慮した対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診結果表に基づいて次回受診時に何を話せば良いか看護師と相談して、適切な受診が出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に様子観察に伺い、入院先の医師や看護師・MSWと連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応に対する意見をご家族に確認しております。	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を伝え、他の利用者にも配慮しつつ、医療連携(24時間・365日)を持ち、家族・利用者にとって不安のない旅立ちを支援している。外部研修・看護師の勉強会を実施し職員がスムーズに対応できるよう、スキルアップを行っている。職員の利用者とターミナルケアに対する熱い思いはヒアリングから感じることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し落ち着いて対応が出来るように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行なっています。	自主訓練と消防署指導訓練(前回、火災報知器がなると同時に消防署に通報するシステムのアドバイスを受け改善した)を年2回実施し、利用者が安全に避難できる方法を身につけている。様々な場面を設定し、夜間想定・緊急通報システム・連絡網・消火器使用・避難経路確認・利用者行動把握等、迅速に対応できるように体制の構築は出来ている。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。広域避難場所は職員も周知している。	緊急時にサッと持ち出せる必要書類等の検討・確認・整備・事故等のマニュアルを再度見直し、落ち着いて対応できることを期待する。夜間帯の不安解消に向けて、運営推進会議メンバーに協力依頼を行い、合同訓練の実施となることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を踏まえた上で、個々に合った声掛けをしています。	利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない配慮を行い、利用者がホームで生活することが楽しみとなるような取り組みを行っている。職員の声掛けは落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと話し、利用者が笑顔で返している光景が多々見られた。書類関係は事務所内に保管。肖像権を含め個人情報保護に努めている。面会簿は今後、個人ごとの記載に変更予定。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者さまが自分の希望を言えるような雰囲気作りに心がけ、また普段から表情の変化等をよく観察し職員に打ち明けて頂けるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をずらしたり、その日の体調や気分に合わせて生活して頂けるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて服を一緒に買いに行ったり、昔から使っているクリーム等を購入し使用していただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや茶碗拭きを利用者の無理の無いように手伝って頂いています。	旬の食材を取り入れたメニューを利用者と職員で考え、食材を地元の商店に注文し配達してもらい、利用者と一緒に(皮むき等)楽しみながら準備を行っている。職員も同じテーブルを囲み食欲や誤嚥に注意を払いながら、会話のある食事風景となっている。レクの一環としてのおやつ作り(ポップコーン・ホットケーキ等)は男性利用者も一緒に行い、楽しいひと時となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方等に関しては主治医に相談したり、好物やおやつ等で摂取して頂けるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に応じて、口腔内の清潔に対してケアさせて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレに誘導することで自らの意思で排泄の訴えや行動に移れるよう支援しています。	昼間(夜間はおむつ・ポータブル使用している利用者も)は出来るだけトイレでの排泄や排泄の自立に向けた対応を行い、尿意・便意がない人でもトイレに行くことを習慣づける事で自らの意志で行動に移れるように支援を行っている。自然排便の対策として、運動・水分・食物繊維の食べ物を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を処方してもらう前に運動をしていただいたり、水分に気を付けたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに声掛け入浴していただいています。入浴剤を使い、楽しく入れるようにしています。	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴は可能である。拒否者には臨機応変に対応。介護度の高い利用者には職員2人体制・デイレフトの利用し、気持ちよく入浴(シャワー浴も)してもらい清潔保持に努めている。季節に応じてリング・しょうぶ湯・入浴剤を使用したときは利用者の会話も弾むという。皮膚感染予防対策として足ふきマットの上に個人用タオルを敷き対応している。着替えは利用者に整えてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活のリズムに気を付けて、日中過ごしていただき、夜勤者との申し送りをし不眠時には休息を促したりして支援させていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情シート等を管理して職員が薬の情報を得られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や歌番組等入居者さまの楽しみを把握し、その日の状態に合わせて料理補助や洗濯物を畳んだり等の役割をこなして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩、外気浴、お墓参り、お正月の外泊など本人の希望によって対応しています。希望によっては、ご家族の協力も頂いています。	外気浴が自然に取り入れられるように近場の散策・季節ごとのイベント外出(千波湖に白鳥見学・笠間の菊祭り・花見等)・買い物・お墓参り・外泊・通院等家族の協力も得ながら支援に努めている。自宅に戻り30分～1時間ほど家族とお茶を楽しんでくる利用者がいる。町や自治会のイベントにも参加し外出機会は多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちの金銭が無いと不安な方には家族と話し合い紛失してもよい金額をご本人様に持って頂いています。使うことに関してはお金を立替えて買い物をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでもご家族さまとの連絡を支援させて頂いています。近くで火事があった時等には電話をしたりすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った貼り絵や、皆の作品を飾り、気持ちよく過ごして板だ得るようにしています。	玄関先の草花は利用者や訪問者を温かく迎え入れる雰囲気となっていた。明るく開放的なリビングには季節の五月人形・兜・鯉のぼり・草花や貼り絵・手作りカレンダー等を飾り見当識を配慮した工夫となっている。玄関・リビングに飾られた吉幾三さんの直筆の書道が目を引きいていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを置き一人に慣れる場所を作っています。また日々の行事によっては席を変えた工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物や、ご家族の写真等を飾ったり、して本人の居心地良い空間を作っています。	家族との思い出が詰まった筆筒・テーブル・椅子・テレビ等を安全に配慮し使いやすく配置されている。家族の写真や趣味のぬいぐるみ・母の日にプレゼントされたカーネーション等は利用者の心を和ませる雰囲気を提供している。掃除は職員が行い、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器を拭いてもらう事でも、重いもの軽いものお盆等一人ひとりに合わせ安全に支援できるように工夫しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームほほえみ

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 7 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議では利用者の状況と行事の報告をしているが、家族の参加がなく、家族への近況報告や連絡がなかった。事業所の行事や利用者の近況を伝える必要がある。	利用者の近況の電話での報告や葉書での連絡、行事開催の連絡、行事等のご本人の写真を送付出来る様にする。	日々の様子の中から変化等があれば、その都度電話連絡をしていく。また、行事や日中過ごしている利用者の様子を写真に撮り、家族へ送付する。	3ヶ月
2	35	緊急時に職員誰もが落ち着いて行動できるようマニュアルの見直しや置き場所の改善が必要である。また、夜間帯の協力体制の構築。	運営推進会議メンバーとの協力体制を構築し、合同訓練を行う。	職員全体での会議を開催し、緊急時の行動基準を周知していく。また、運営推進会議メンバーに協力依頼を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。